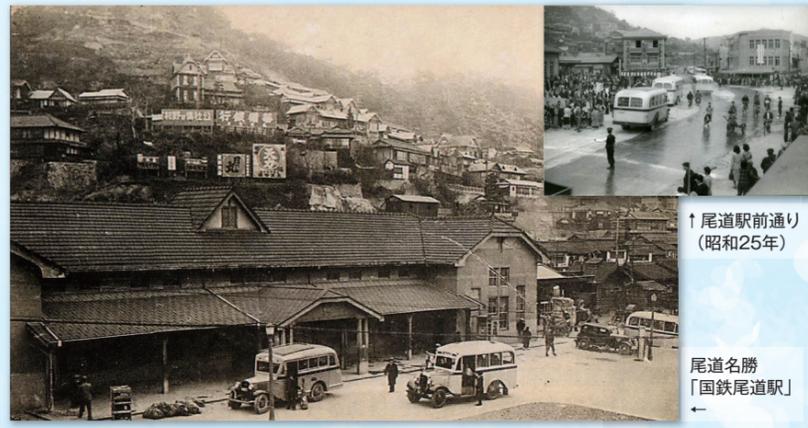


尾道のあゆみ

- 1889年(明治22年) 町制施行し尾道町となる
- 1891年(明治24年) 山陽鉄道福山～尾道間開通(尾道駅開業)
- 1892年(明治25年) 山陽鉄道尾道～糸崎間開通
- 1894年(明治27年) 三木半左衛門らが千光寺山に共楽園(のちの千光寺公園)を開く
- 1898年(明治31年) 広島県で2番目に市制施行する
- 1915年(大正4年) 広島県内で最初に市立図書館を開館する
- 1925年(大正14年) 尾道鉄道開通
- 1935年(昭和10年) 第1回尾道みなと祭開催
- 1937年(昭和12年) 御調郡栗原町、吉和村と合併
- 1939年(昭和14年) 沼隈郡山波村と合併
- 1950年(昭和25年) 尾道短期大学を開学
- 1951年(昭和26年) 御調郡深田村大字久山田と合併
- 1954年(昭和29年) 御調郡美ノ郷村、木ノ庄村、原田村と合併
- 1955年(昭和30年) 沼隈郡高須村、西村(現西藤町)と合併
沼隈郡百島村と合併
- 1957年(昭和32年) 沼隈郡浦崎村と合併
千光寺山ロープウェイ開通
- 1968年(昭和43年) 尾道大橋開通
- 1970年(昭和45年) 御調郡向東町と合併
- 1972年(昭和47年) 尾道バイパス全線開通
- 1983年(昭和58年) 因島大橋開通
- 1988年(昭和63年) 新幹線新尾道駅開業
- 1991年(平成3年) 生口橋開通
- 1999年(平成11年) 瀬戸内しまなみ海道全橋開通
- 2005年(平成17年) 御調町、向島町と合併
- 2006年(平成18年) 因島市、瀬戸田町と合併
- 2015年(平成27年) 中国やまなみ街道全線開通
「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」が日本遺産認定
- 2016年(平成28年) 「日本最大の海賊」の本拠地:芸予諸島-よみがえる村上海賊の記憶-」が日本遺産認定



↑尾道駅前通り(昭和25年)

尾道名勝「国鉄尾道駅」



↓明治の尾道

昭和の尾道(昭和30年頃)↑

御調

御調町域には明治22年、当時いずれも御調郡に属する菅野村・上川辺村・市村・河内村・今津野村・奥村・諸田村の7カ村がありました。昭和25年、市村が木ノ庄村の一部(江田・国守)を編入しました。
昭和30年に菅野村・上川辺村・市村・河内村・今津野村・奥村と諸田村の一部(大字下山田・大山田・千堂)が合併して、現在の御調町となりました。
御調町は山陰・山陽を結ぶ石見路に面しており、古代は府中から安芸真良へ通ずる山陽道の官道として駅もあったといわれ、交通の要衝として早くから開けていました。
また、昭和49年から公立みつぎ総合病院を中心とした「寝たきりゼロ作戦」等、地域包括ケアシステム構築に取り組む、地域包括ケア発祥の地でもあります。

串柿づくり(昭和30年頃)「御調町閉町記念誌より」



↑尾道鉄道で遠足へ(昭和32年)

向島

町村制施行により御調郡向島西村となり、昭和25年に町制施行の際改称して、向島町となりました。昭和29年岩子島村を編入し、昭和30年長寿村として知られた立花村を編入しました。
古くは、歌島・歌島郷といわれていましたが、次第に「向いの島」「向島」といわれるようになりました。明治39年松場鉄工所が最初に起業したのち数社ができ、造船業が盛んになっていきました。
尾道との間の交通手段として「渡船」があり、土堂渡し場と向島の兼吉をつなぐ、通称「兼吉渡し」を始め、最大で12カ所まで増えました。
瀬戸内の気候と、島の殆どが丘陵地で平地が少ない特性から、かんきつ類の栽培が行われています。また洋ランやシクラメンの栽培も盛んで、向島洋ラン組合が第17回日本農業賞の広島県知事賞を受賞し、平成7年には向島洋らんセンターを開設しました。



↑兼吉橋(昭和37年)



↑日立造船向島西工場での大元丸進水式(昭和29年)



↑広島県立尾道商業高等学校(創立130年) 明治21年、尾道商業学校として久保町に開校、その後明治25年長江町へ、昭和14年吉和町へ移転(写真は昭和14年吉和町へ新築移転した時のもの)



尾道水道(昭和30年頃)↑

瀬戸田

町村制施行により瀬戸田町・沢村が合併して瀬戸田町となり、同時に垂水村・福田村が合併して西生口村に、林村・中野村・鹿田原村が合併して北生口村に、御寺村・宮原村・荻村が合併して南生口村となり、名荷村、高根島村とともに豊田郡に属しました。
昭和12年西生口村と合併、さらに昭和19年北生口村・名荷村・高根島村の3カ村と合併、ついで昭和30年南生口村と合併し、現在の瀬戸田町になりました。
芸予諸島の美しい島々の中央部に位置する瀬戸田町は、瀬戸内の温暖な気候を生かした全国有数のかんきつ類の生産地であり、また歴史ある神社・仏閣が多く、文化の薫る町として早くから芸術鑑賞や音楽鑑賞などの文化事業に取り組んでいます。
平成11年瀬戸内しまなみ海道の全橋が開通し、島の特色を活かしながら、広く世界につながる文化と芸術の拠点づくりを進めてきました。



↑安芸国瀬戸田全景



耕三寺全景↑

因島

町村制施行当時の因島は、土生村・田熊村・三庄村・中庄村・大浜村・重井村・三浦村の7カ村、海を隔てた生口島に、東生口村がありました。
大正7年に土生村が町制施行で土生町となり、大正10年三庄村が三庄町となりました。昭和23年には三浦村のうち大字棕浦が三庄町に、外浦・鏡浦が中庄村に編入、昭和24年田熊村が町制施行で田熊町となりました。昭和28年これらの3町4村が合併して因島市が発足しました。
瀬戸内の温暖な気候と多島美の豊かな自然に恵まれた因島は、かんきつをはじめ花木の栽培などが盛んなうえ、古くは、村上水軍の本拠地として栄えたことから、「水軍と花とフルーツの島」のまちづくりを行っています。また、基聖本因坊秀策の生誕地でもあることから、「因島のまぢいんのしま」のまちづくりに取り組んでいます。



因島土生町全景↑



因島鉄工所新船台(村上写真館発行)→



みなと祭の様子(昭和30年)↑



駅前魚市場の様子(昭和40年)↑

写真提供:尾道学研究会